

不完全競争市場と独占

マイクロ経済入門・マイクロ経済学の考え方
赤井伸郎

本章は、「マイクロ経済学入門」西村和雄（岩波書店）
をベースにしている。

完全競争市場

- プライステイカー⇒価格を所与として行動する主体
- 競争市場⇒プライステイカーとして行動する多数の経済主体からなる市場

完全競争市場<競争市場が完全となる状態>の条件

- (1) 同種類の財を作る企業の生産物は同質である。
- (2) 家計・企業は多数存在し、個々の取引量は全体に比べて十分小さい。
- (3) 個々の家計・企業は、その行動を決定する際に、他の家計・企業に与える影響を考慮しない。
- (4) 個々の家計・企業は、市場価格や財の特性について完全な情報をもっている。
- (5) 長期的には企業による市場への参入・退出は自由である。

出所：

「ミクロ経済学入門」西村和雄（岩波書店）p184より抜粋

不完全競争市場

- 以下の(1)と(2)の条件が崩壊

- (1) 同種類の財を作る企業の生産物は同質である。
- (2) 家計・企業は多数存在し、個々の取引量は全体に比べて十分に小さい。
- (3) 個々の家計・企業は、その行動を決定する際に他の家計・企業に与える影響を考慮しない。
- (4) 個々の家計・企業は、市場価格を操作できない。
- (5) 長期的には企業による市場への参入・退出は自由である。

企業が価格を操作できる
=>企業に価格支配力がある

出所：

「ミクロ経済学入門」西村和雄（岩波書店）p184より抜粋

不完全競争市場

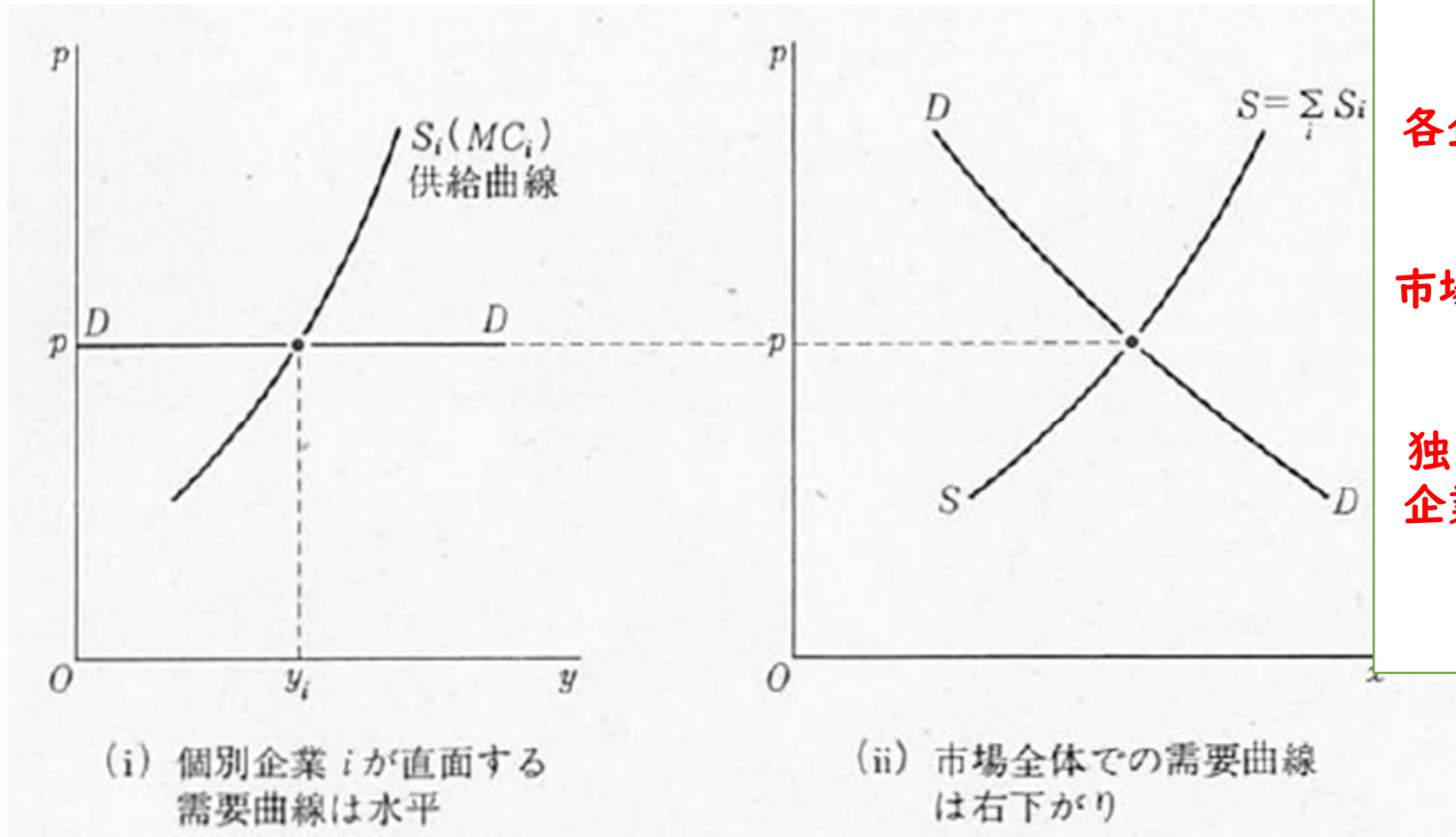
- 独占Monopoly: 1社のみがある製品を生産
- 寡占Oligopoly: 少数の会社のみがある製品を生産
- 複占Duopoly: 2社の会社のみがある製品を生産

独占が生じる背景

- 1) 政府による規制
- 2) 生産に必要とされる資源の独占
- 3) 規模の経済による平均費用逡減

完全競争市場の需要曲線

出所： 「ミクロ経済学入門」 西村和雄
(岩波書店) p232より抜粋

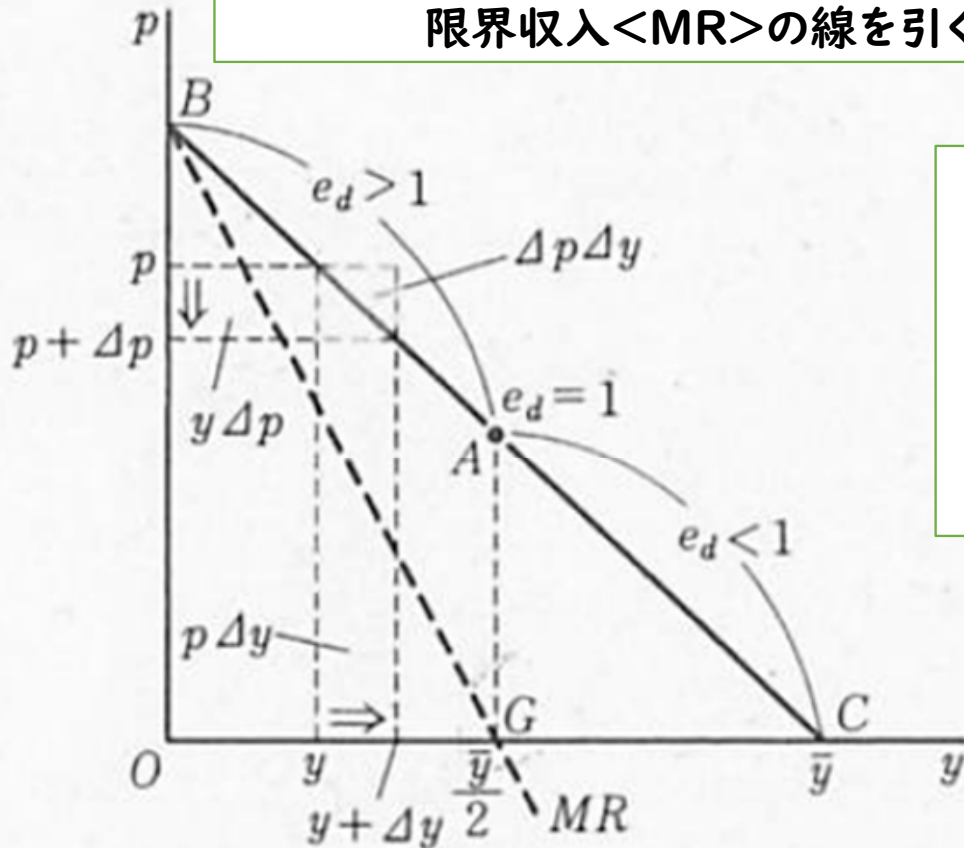


個別企業は価格支配力を持たない。
↓
各企業が直面する需要曲線は水平
↓
市場全体では、価格に対して需要は変化
↓
独占市場では、右図が個別企業が直面する需要曲線になる

独占企業の利潤最大化行動

出所： 「ミクロ経済学入門」 西村和雄
 (岩波書店) p233より抜粋

総収入<TR 売上>を考えてみよう
 限界収入<MR>の線を引くと?



e_d = 需要の価格弾力性

$$e_d = - \frac{dy/y}{dp/p}$$

e_d と限界収入の関係
 $e_d > 1$: 限界収入 > 0
 $e_d = 1$: 限界収入 = 0
 $e_d < 1$: 限界収入 < 0

$$e_d - 1 = \frac{-pdy - ydp}{ydp}$$

$$= - \frac{(p+dp)(y+dy) - py}{ydp}$$

(i) 総収入の変化分 $(p + \Delta p)(y + \Delta y) - py$

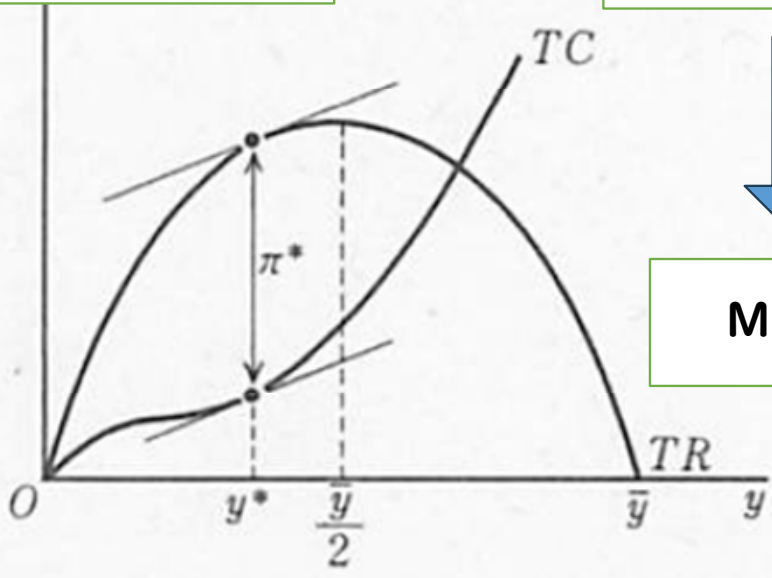
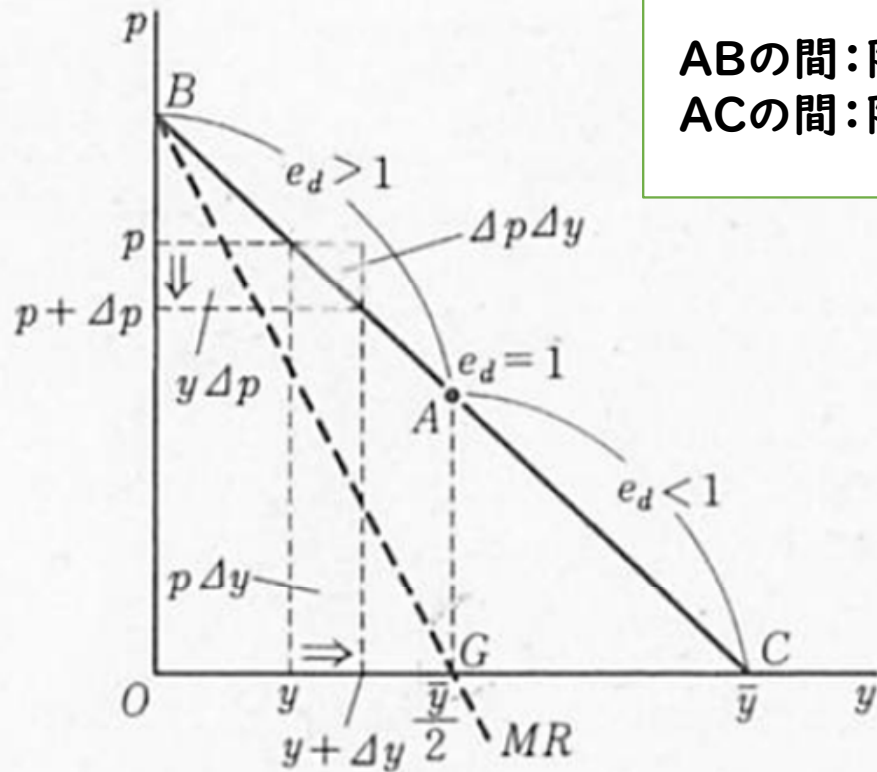
独占企業の利潤最大化行動

出所： 「ミクロ経済学入門」 西村和雄
(岩波書店) p233より抜粋

総収入<TR売上>を考えてみよう
売り上げの変化分<限界収入MR>はどうか？

ABの間：限界収入>0：TR増加
ACの間：限界収入<0：TR減少

利潤が最大になる
yはどこ？
その条件は？

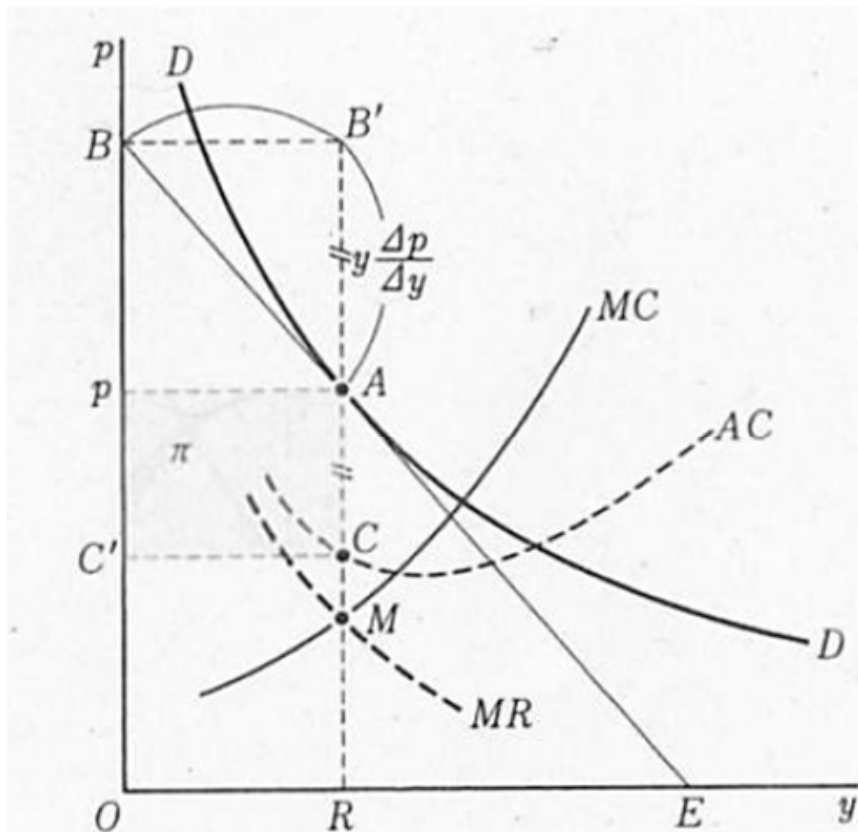


MR=MC

(i) 総収入の変化分 $(p + \Delta p)(y + \Delta y) - py$

(ii) 利潤 $\pi = TR - TC$

参考：限界収入<MR>線の導出と利潤最大化の生産量



yを増加させたときの限界的な収入の減少分

$$y \frac{\Delta p}{\Delta y}$$



$$MR = AR - B'A = p + y \frac{\Delta p}{\Delta y}$$



MR=MCとなるyで生産すると利潤最大
その時の利潤は？

図 10-3 $MR = AR - B'A$

出所：「ミクロ経済学入門」西村和雄（岩波書店）p 234より抜粋

数式での理解：利潤最大化

- 一般企業の利潤

利潤関数： $\Pi = p \cdot y - C(y)$

- 一般企業の利潤最大化

MAX： $\Pi = p \cdot y - C(y)$

➔ $p = dc(y)/dy$

➔ **$p = MC$**

- 独占企業の利潤

利潤関数： $\Pi = p(y) \cdot y - C(y)$

- 独占企業の利潤最大化

MAX： $\Pi = p(y) \cdot y - C(y)$

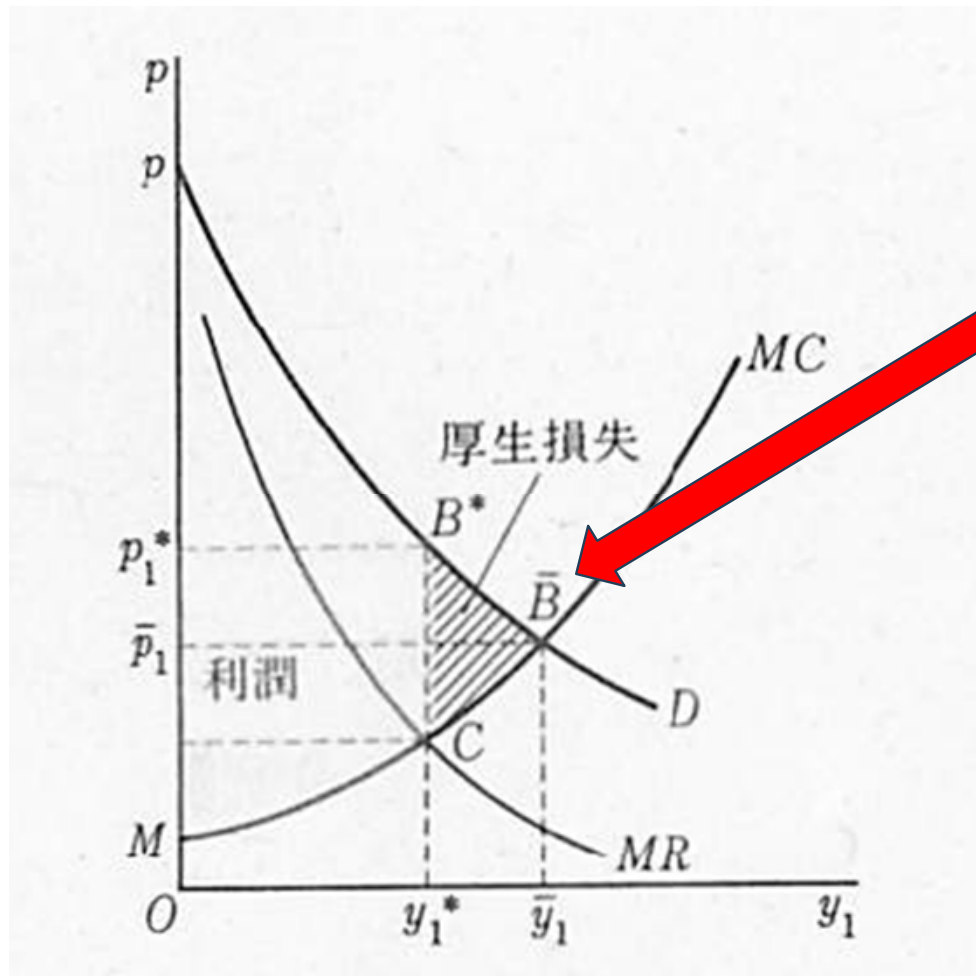
➔ $p + dp(y)/dy \cdot y = dc(y)/dy$

➔ **$MR = MC$**

数式での理解：関数系を特定化した場合での計算

- 独占企業の利潤
- 利潤関数： $\Pi = p(y) \cdot y - C(y)$
- 需要関数を、 $p = -ay + b$ としよう。
- 費用関数を、 $C(y) = (1/4)y^2$ としよう。
- 利潤関数： $\Pi = (-ay + b) \cdot y - C(y)$
- 利潤は、 $MR = MC$ となるところで生産することで最大となる。
- MR は？ $(-ay + b) \cdot y$ を微分してみよう！
- $MR = MC$: $-2a + b = (1/2)y$ ➡ 均衡生産量と均衡価格は？

独占による厚生損失



独占時には、厚生損失が発生

出所：「ミクロ経済学入門」西村和雄（岩波書店）p240より抜粋

まとめ：重要語

- ・ 独占、寡占、複占
- ・ 需要の価格弾力性
- ・ 限界収入
- ・ 独占企業の利潤最大化条件
- ・ 独占時の厚生損失